

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 地域を身近な環境に／社会福祉法人しらゆり会 しらゆり保育園

地域の環境をどのように活かして、保育の充実に繋げていますか？  
地域の身近な環境を活かして、子どもたちに豊かな体験ができるように工夫することで、子どもたちは、興味を広げ自ら探求を深めていきます。  
地域の森に繰り返し関わることで、長期に亘って子どもたちの興味が持続したり、四季の移り変わりを感じたりするなど「科学する心」を育む豊かな体験ができるような工夫をしている園の事例をご紹介します。



### ○ 園の柏の木も同じ仲間／4・5歳児

子どもたちは、自分たちでドングリを育ててみたいと思い、地域のドングリの森（子どもたちが付けた名前）に行った。ドングリの森と出会った子どもたちは、興味・関心を広げ、たくさんの不思議なことを見つけた。ある日、柏の木を発見する。

#### ✦ 子どもの会話

前年秋

「くぬぎみ一つけた」  
「本当だ」  
「茶色くて栗みたいだ」  
「これは、柏餅の木だけん。くぬぎじゃないよ」  
「でも、同じだよ（実の形が）」

冬

「どうしてなかなか葉っぱが落ちないのかな」  
「この木（葉がほとんどなくなっている柏）が枯れたらこっちの木（葉がまだ残っている柏）も後から枯れるよ」  
「こっちの木（葉がまだ残っている柏）が強くて、この木（葉がほとんどなくなっている柏）は、きっと弱いんだよ」  
「きっとね、誰かが落ちていた葉を木に付けてるんだよ…」



4月

「まだ、葉っぱが付いている」  
「どうして落ちないんだろう？」  
「あの木は強い木だから葉っぱは落ちないんだよ」  
（保育者）「じゃあ、あの葉っぱはずっと木に付いていると思う？」  
「うん」  
（保育者）「じゃあ、茶色いままだと柏餅を作る時の葉っぱはどうなる？」  
「うん、きっとね茶色から緑色に変わるんだと思う」  
「緑の葉っぱが出てから茶色が落ちるんじゃない？」



5月

(保育者) 「茶色い葉っぱは、いつ落ちたんだろうね」  
「きっとこの間のお休みの時だよ」  
「緑の葉っぱと交代したんじゃない？」  
「花が咲いている」  
「ドングリの花と同じ花だ」  
「じゃー柏の木もドングリの仲間なんだ。柏もみーんなドングリ？」



8月

(保育者) 「赤ちゃんの実が付いている」  
「葉っぱが大きくなっているね」  
「柏の小さい赤ちゃんが下にいっぱい落ちているね」  
「秋じゃないのにね」  
「いっぱい過ぎて落ちたんだと思うよ」



9月

「柏が大きくなってる！」  
「茶色じゃない。緑だよ！」

## ✦ 考察

### 言語化する力

自分の思ったことを言葉にして表現、伝達していくことで自分の考えを確認できることや友達に分かってもらえる楽しさを感じ取っていった。楽しいこと、不思議なことなどに会う度に、その言葉の表現から話す力が育っていることが読み取れる

### 見通す力

葉っぱが枯れると落ちるものだと思っていたが、なかなか落ちない葉を見て不思議に思い、こうなるのではないかと（緑の葉っぱが出てから茶色が落ちる）と自分なりに考えて見通して言ったのだと思われる。

### 継続の力

茶色の葉が緑の若い葉を見届けるように落ちていくことは、継続して観察していたからこそその気づきだった。

### 気付く力

前年度からの長期に亘る観察であるからこそ、他の季節との比較ができた。また、1か月で柏の実が茶色から緑に大きく生長したことなど、わずかな期間での変化にも気付く力が育まれたと思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団  
ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」